

巨大津波から逃れた岩手県の鶯住居小学校と釜石東中学校の児童・生徒たち、その避難路となったのは三陸縦貫自動車道 釜石山田道路だった。

仙台東部道路や福島県の国道6号相馬バイパスは、盛土が防潮堤の役割を果たした。また、宮城県の岩沼市寺島地区の住民は、阿武隈川の堤防の上に避難し難を逃れた。

さらに、道の駅では多くの避難者を受け入れ、水や食料、情報などを提供し、支援物資の中継場所としても利用された。命を守り、被災者を支えた働きがそこにあった。

道路や堤防などの果たした役割の記録

役割